



2019年9月26日

各位

会社名 マックスバリュ北海道株式会社
 代表者名 代表取締役社長 出戸 信成
 (コード: 7465 JASDAQ)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 石橋 孝浩
 (TEL. 011-631-5192)
 当社の親会社 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード: 8267 東証1部)

2020年2月期第2四半期(累計)業績予想の修正および特別損失計上に関するお知らせ

当社は最近の業績の動向等を踏まえ、2019年4月10日に開示いたしました2020年2月期第2四半期累計期間(2019年3月1日~2019年8月31日)の業績予想を修正することといたしましたのでお知らせいたします。また、2020年2月期第2四半期会計期間(2019年6月1日~2019年8月31日)において、特別損失(減損損失)を計上することになりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2020年2月期第2四半期(累計)業績予想数値の修正(2019年3月1日~2019年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	66,800	450	450	△20	△2.89
今回修正予想(B)	66,159	559	574	111	16.19
増減額(B-A)	△640	109	124	131	—
増減率(%)	△1.0	24.4	27.6	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年2月期第2四半期)	64,707	206	201	△187	△27.13

2. 修正の理由

2020年2月期第2四半期累計期間における営業収益は、新規出店および店舗の活性化を継続的に実施し、節約・低価格指向に対応した重点商品の販売強化や野菜の鮮度改善への取組み等を実施したことにより、前回予想数値は若干下回りましたが、前年同四半期実績を上回ることができました。一方、販売費及び一般管理費は、キャッシュレス決済増加による手数料増や経営統合費用の発生等がありましたが、新店や活性化投資等の経費予算を管理することで前年同四半期並みとなり、営業利益、経常利益は前回予想数値を上回る見通しとなりました。また、特別損失(減損損失)の見込みが想定以内となったことにより、四半期純利益は、前回予想数値を上回る見通しとなりました。なお、通期の業績予想につきましては、2019年4月10日に発表いたしました予想数値に変更はありません。

3. 特別損失(減損損失)の計上とその内容

2020年2月期第2四半期会計期間において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社が保有する固定資産について、現在の事業環境および今後の業績の見通し等を勘案し将来の回収可能性について検討いたしました。その結果、一部店舗等の固定資産の減損処理を実施し、2億31百万円を計上することになりました。

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上